

よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

# 蔵通信

二七号  
2011. 8

第二十六話 子に託す忠心  
絵金百話 シリーズ

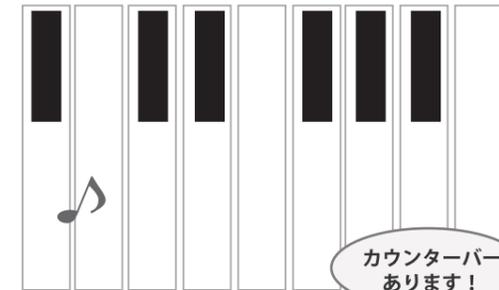
発行：絵金蔵運営委員会  
発行日：2011年8月1日  
〒781-5310  
高知県香南市赤岡町538  
Tel.Fax 0887-57-7117  
ekingura@mxi.netwave.or.jp  
http://www.ekingura.com/



## INFORMATION

### Kuni Mikami Trio 蔵でJAZZ vol.4

Kuni Mikami (piano) Masao Hayashi (bass) Manabu Hashimoto (drums)



start 19:00  
tiket ¥3,500

## Ekingura

アメリカ屈指のジャズビッグバンドで活躍してきたピアニスト、クニミ上が絵金蔵に帰ってきます！  
ご好評いただいている、蔵でJAZZ第4弾、お酒を飲みながら、会話を楽しみながら、本当のジャズを全身で感じて下さい！！  
限定100席、ご予約はお早めに。

日程 10月3日(月)  
場所 絵金蔵 主催 絵金蔵運営委員会

◎チケットは前売のみ。お求めは絵金蔵にて。電話、Eメールでのご予約も承ります。 \*未就学児の入場はご遠慮下さい

### DUO Chikuzan Takahashi & Min Tanaka

田中 混

高橋竹山

# 海と甲

高橋竹山 (たかはし ちくざん・ダンサー)  
11歳で三味線の稽古を始める。18歳で津軽三味線奏者の初代・高橋竹山の内弟子となる。1979年自立。以後独自の演奏活動を行いながら、アメリカ・フランスなど海外公演も行う。1997年二代目・高橋竹山を襲名。基本を大切にしながら、民謡のみにこだわらず、様々なジャンルの演奏家たちと共演し、独自の音楽表現を模索。伝統にモダンな現代感覚と女性らしい繊細さを盛り込む。

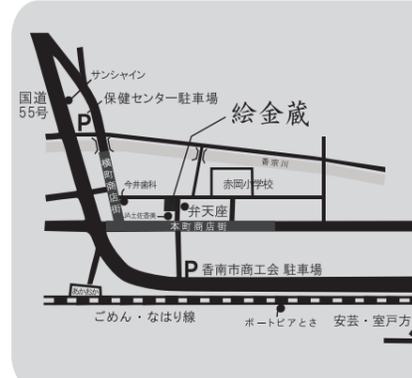
田中 混 (たなか みる・ダンサー)  
クラシックバレエ、モダンダンスを学ぶ。1966年よりソロダンス活動開始。1970年代より「ハイパーダンス」と称して、新たな独自の踊りのスタイルを発展させる。現在、国内外で独舞、グループ作品の公演活動を精力的に行う。より根源的な自身の踊りの追求として「場踊り」を継続。

9月4日(日) 弁天座

開場：15:30 開演：16:00  
入場料：前売り券 3,500円 当日券 4,000円  
主催：弁天座運営委員会 香南市赤岡町795番地  
Tel 0887-57-3060

#### 【絵金蔵】

閉館時間  
午前9時～午後5時  
(入館は午後4時半まで)  
観覧料  
大人500円、高校生300円  
小・中学生150円  
(15名以上の団体は各50円引き)  
休館日  
毎週月曜日  
(月曜が祝日の場合は火曜)  
12月29日～1月3日



幕末土佐の芝居絵師・金蔵(通称・絵金)。彼は土佐各地の祭礼に多くの芝居絵屏風を残しました。絵金蔵は、平成17年2月、赤岡の地に残る23点の芝居絵屏風を収蔵・保存するために作られた施設です。

#### 絵金蔵の三つの使命

：縁結び地域を超えて世代を超えて  
：伝承の次世代へ伝えるため  
：年に一度絵金の文化を守るため

# 絵金百話

第二十六話 子に託す忠心

## 絵本太功記 杉の森とりで

< 概要 >

『絵本太功記』は寛政11（1799）年7月12日、大阪道頓堀・若太夫芝居（旧豊竹座）にて、時代物の人形浄瑠璃として初演されました。近松柳、近松湖水軒、近松千葉軒による合作です。

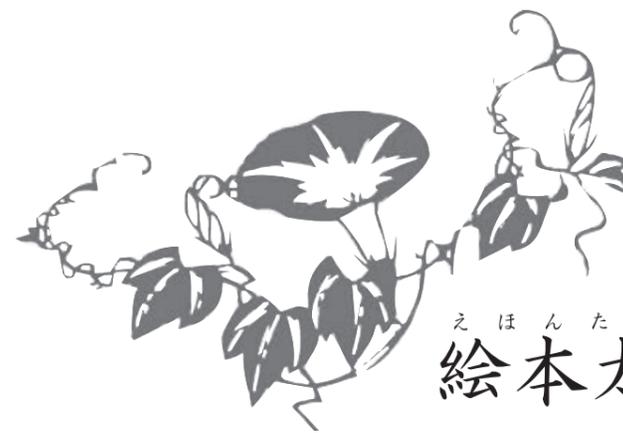
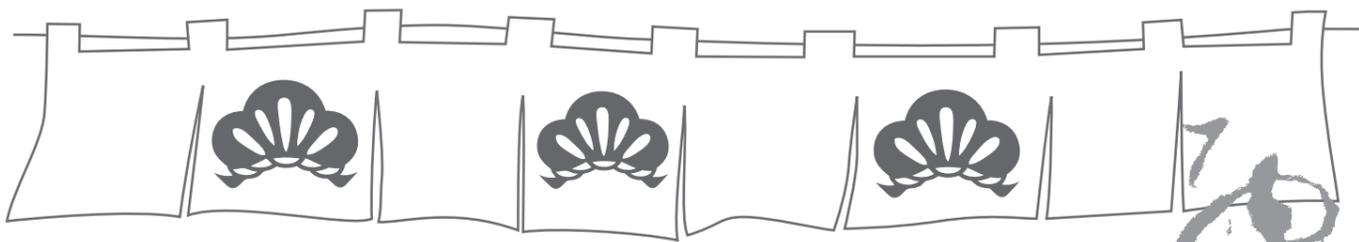
当時好評を得ていた読本『絵本太閤記』や実録本『太閤真蹟記』など、太閤一代記物のなかから明智光秀の謀反を主題に脚色し、本能寺の変が起きた6月1日から光秀が最期を遂げた13日まで、一段に一日を当てた趣向で構成されています。本作の初演に先立って配布された刷り物には、衰退しつつあった浄瑠璃の生き残りをかけ「豊竹越前芝居再興且は元祖追福のため毎朝五つ時迄二百人様宛ほうらく二仕候間」、つまり早朝5つ（初秋の7時頃）までの先着100人には初世若太夫追善のため観劇無料とすること他、様々なサービスが盛り込まれました。

そうした苦勞の甲斐あって、本作の興行は大成功を収めます。また興行的な成功のみならず、今日まで親しまれる浄瑠璃戯曲史上最後の傑作\*と称され、特に「尼ヶ崎の段」（十日の段）は歌舞伎も含め地方の旅芝居、村芝居に至るまで、最も上演数の多い演目の一つとなりました。

「杉の森とりで」（七日）の段は、織田信長と浄土真宗の本寺・石山本願寺の第11代顕如上人を中心とする一向一揆との11年にわたる石山合戦を描いた、石山軍記物が取り込まれています。「杉の森とりで」とは顕如上人が天正8年（1580）大阪・石山を退去して本願寺の本拠を移した紀州・鷺の森から取られた名称です。物語は、一向宗信徒と共に將軍足利慶覚を守護し戦う鱸重成が、尾田軍の猛威により杉の森とりでに退去するところから始まります。その重成のもとに、尾田との和睦失敗により勘当した息子・孫市が現れ、切腹の覚悟を告げます。孫市は父の前で止めようとする妻を杉の木に縛り付け、腹を切った後、幼い息子に言い聞かせて共に自らの首を落としました。その場で重成は勘当を許し、首を真柴久吉に届けて和を乞います。そこで無事、足利慶覚は久吉に迎えられ、都帰還を果たすのでした。

絵金が描いた本作は、香美市土佐山田町・八王子宮の夏の祭礼において、大きな絵馬台上に掲げられる絵です（現在は不定期展示）。孫市の壮絶な最期と、修羅場に巻き込まれた妻子の驚きと悲しみ、苦悶する父…、この段のクライマックスを画面に余すところなく焼き付けた秀作です。

\* 内山美樹子 解説「伊賀越道中双六」と「絵本太功記」『新日本古典文学大系94 近松半二・江戸作者浄瑠璃集』（1996年9月 岩波書店）所収



本店 赤岡 西川屋 菓子店  
西川屋 おりじん  
OPEN!

前号で紹介した菓子店・西川屋の店舗兼資料館が、先月7月6日、赤岡町横町にオープンしました。

もと赤岡本店であり、近年では絵金祭の際にのみ開店していた店舗をリニューアル。土佐の和菓子文化伝承・発信の拠点として、長年土佐藩の御用をつとめてきた西川屋ならではの古文書類、美術品が常時どなたでも鑑賞できるよう、しつらえられています。



西川屋赤岡本店は元禄元年（一六八八）初代西川屋才兵衛により現地に開店しました。伝来する文書類は土佐藩からの素麺や菓子類の注文書を中心に近代のものまで含めて約三〇〇点、その他二〇〇点余りの菓子製作の道具類、絵金や河田小龍（一八二四―一九八）などによる美術品が残されています。

十二代目の当主は、先代の「赤岡に戻りたい」という言葉と、近年様々な史料が見つかったことなどをきっかけに、赤岡の活性につながれば、という思いから、再開に至ったそうです。

開店にあたり、土佐藩に献上していた「山ノ薯饅頭」を復刻、赤岡店限定で販売しています。

絵金蔵から徒歩三分、町にお越しの際はぜひお気軽にお立ち寄りください。

菓匠西川屋赤岡本店  
西川屋おりじん

香南市赤岡町 470  
Tel. 0887-54-3066

・営業時間

10:00 ~ 18:00

・定休日

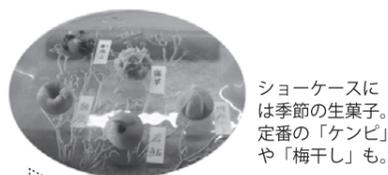
月曜（祝日の場合は翌火曜）



赤岡 西川屋



リニューアルされた入口。亀松模様の白いれんをくぐると…



ショーケースには季節の生菓子。定番の「ケンピ」や「梅干し」も。



河田小龍の板絵が通路に！



売り場奥の吹き抜けの部屋。現在は絵金（中央）と宮田洞雪による幟を展示中。



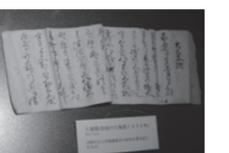
さらに奥にはお菓子と抹茶が飲めるスペース。中庭を眺めながら、ゆるりと。



さらにその奥にある多目的スペース「与楽亭」。もと菓子製造場を改修、約50人が収容できます。



中庭の風景。昭和26年、先々が建てた風流な離れ。



安政大地震を記した「大変附」



御用貼り混ぜ屏風



もとは厨子（物置）として利用されていた中二階。建築当時の面影を残す漆喰壁や古材も味わうことができます。



階段を上ると、古文書類のある資料室。入場無料。

平成二十三年  
ロックアツパ 宵宮・絵金祭り

今年も七月十四・十五日の須留田八幡宮宵宮祭りと、七月第三土日の十六・十七日、絵金祭りが賑やかに行われました。  
絵金蔵では、例年この両祭りにあわせ、特別展示を行っています。今回は昨年の幟に引き続き、初出展となる地元赤岡町・須留田八幡宮所蔵の絵馬や室戸市・王子宮絵馬、十五年ぶりの香南市夜須町・八坂神社絵馬など四点を、通常は宵宮の雰囲気再現している闇の展示室を使ってご覧いただきました。  
画面から鬼が今にも飛び出て来そうな、いかにも絵金らしい迫力満点の羅生門図がある一方、やや小さな画面に穏やかな筆遣いでまとまりよく描かれた鶴退治図のような作品もあります。絵金の作風の多様さを感じていただけたのではないのでしょうか。  
またこうした作品を身近でじっくりとご覧いただける機会をつくりたいと思います。



提灯の明りに浮かぶ須留田八幡宮。右手は屏風絵（複製）。



展示前の調査により確認された須留田八幡宮絵馬。裏に墨書きで「文久元（1861）年本町」とありました。



本町通りの門脇家。所蔵する屏風絵の解説にたくさんの人が聞きっていました。



絵金祭り特別展示、会場風景。

絵本太功記 杉の森とりで  
祭りの情景

『絵本太功記 杉の森とりで』は、本誌十九号でもご紹介した香美市王佐山田町・八王子宮の夏の祭礼に出される作品です。この祭りの夜には現存する絵馬台としては最大規模の豪華な絵馬台が組み立てられ、絵金と河田小龍の屏風五点が揃えられます。  
小さな絵馬提灯で飾られた石段を上ると、暗闇の中、次第に大きな絵馬台が浮かび上がります。いずれも悲劇を描いた五点のなかでも、本作はとりわけ残酷極まりな

い場面を物語そのままに描いた作品です。しかしながら、この絵馬台と一体になると不思議と美しく、幻想的に見えるのです。  
屏風を描いた絵師、この独創的な絵馬台をつくり上げた大工、そしてこれらを奉納し毎年組み立てて人々を楽しませた若衆たち、それぞれの想いと心意気が結集したかたち。魔を祓い、鎮魂を祈る夏の祭礼にふさわしい飾りです。



八王子宮鳥居付近 2009年7月、29年振りに夏祭りに飾られた絵馬台。正面の飾りから、手長足長絵馬台と呼ばれます。

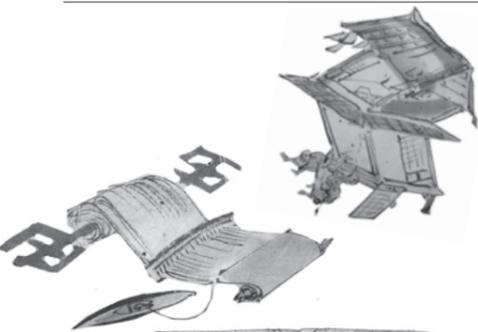


右から二番目が『絵本太功記』

絵金筆

絵本太功記ならぬ

絵本大変記



絵本大変記（部分）  
高知県立図書館所蔵



「潮江に わたせるはしの中程であかきを見れば 余ほど焼けけり」



「あだ呼びに なるとも知らず大汐と麗の町へ ふれる高声」



序文



表紙



高知市鴨部  
郡頭神社祭礼  
平成23年7月21日

昭和十八年以降、台の丸太が朽ちたことから飾られなくなった郡頭神社の絵馬台。昭和五十六年、火災により社殿が焼失し、屏風の一部分が焼損。二年後の社殿改築を機に「台絵馬を復活させよう」という氏子たちの気運が高まり、昭和六十二年、展示が復活されました。  
境内に大型の絵馬台を山門状に組み、芝居屏風を両面に四枚、両脇に小襖をそれぞれはめ込むスタイル。氏子有志による郡頭神社奉納保存会の皆さんにより、現在は毎年行われています。



絵金が残した『絵本大変記』、これは当時流行った『絵本太功記』をもじった題名で、嘉永七年（一八五四）年土佐に甚大な被害をもたらした安政南海地震を描いた本です。百人一首を本歌とし、被災した人々の体験を狂歌に詠み、絵を添えたもので、地震から間もない頃に描かれたと思われる。

題名ばかりでなく、中身も大地震をシャッして笑いのめず歌が多く、今日の私たちがからすればいささか悪乗りが過ぎ、あきれてしまうほど。しかし、その序文では、震災の悲惨さが綴々述べられ、「児童の機嫌直し、町々を繁昌の地と祈らむため、白紙の残りたらん所へ百人首にことよせ、狂歌を加へ」と記されており、念入りに「お気にさへはるは御免そふう」と締めくくられています。

絵金自身も被害を受けたに違いない、そのスケッチは生々しい現実そのものです。そんな悲惨な状況を目の当たりにし、「わしにできることは、やっぱり絵を描くことじゃ。こんなときこそ、腕を振るうちやろう！」

そんなことを言ったかどうか、定かではありませんが、狂歌のない、同じ震災図絵が佐川町にも伝わっています。これらの絵本を受け入れた、幕末庶民のたくましい姿を伝える作品です。



— あらすじ —

尾田春長と不和になった足利慶覚を擁する鱸重成の杉の森砦。重成の息・孫市は尾田との和睦が破れたため勘当されている。

その砦に雑兵の姿で鎧櫃を担いだ孫市が帰ってくる。そこへ砦に忍び込もうした曲者が現れるが孫市は難なく仕留め、その懐中より手紙を見つける。そこには春長父子が光秀に滅ぼされたことが記されていた。声を上げる夫の姿を見た雪の谷、娘・松代が喜んで駆け寄る。孫市は鎧櫃より隠し運んできた息子・重若を出し、家族は久しぶりの再会を喜ぶ。

ところが喜びもつかの間、孫市は切腹すると言う。足に鉄砲傷を受け、春長を討つこともできなかったこと、一端困みは解かれたが、またこの砦に寄せ手が来ることなどを語り、こうなれば自分の首を真柴久吉に差し出し、和睦を乞うしかない、その使いは重若にさせると言う。反対し嘆く妻を木に縛り、二人の子の眼前で腹に刃を突き立てる。

その姿を見た父・重成は初めて勘当を赦すと告げる。孫市は忠義と親孝行二つの望みがかなったと言い、幼い息子・重若の手を添えて切腹の介錯をさせ絶命する。

一同が嘆き悲しむところへ、久吉の内意で慶覚の迎えが来る。最初は疑念を持った重成も迎えに来た中川清秀の言葉に納得する。重若は二代目鱸孫市の名をつぎ、慶覚らが都へ向かう行列に連なる。

■ 今こそ勘当赦してくれる。

「ヤレせがれ、其刀引廻ハすな。云ふこと有り。」  
一部始終を眺めていた重成がやっと声をかけます。孫市の忠義をたたえつつ、さすがの猛者も息子を見殺しにせねばならぬ親の苦しさ、幼くして父と死別する二人の孫の哀れさを嘆くのでした。

御簾の向こうに…

部屋の奥で、孫市忠死の次弟を知った足利慶覚。このあと静かに現れて、涙を流しながら、孫市の死をたたえ、迎えの中川清秀をねぎらいます。

■ とゝ様斯かや。

「今とゝが此短刀を腹へ突きたらばな。コ、此刀と脇差にて身が首を引切。此一書を添て久吉殿へ持参せば。此上もなき孝行者。令点がいたか。」という父の言葉に、ほめられたい一心で介錯の手を添える、弱冠7歳の重若丸。

■ ヲ、そふじや出かす、出かす。

刀を腹へ突き立てたとき、父より勘当を許すという言葉を得た孫市。「忠孝全く望は足ぬ。サア重若松代、最前とゝが申し付けたる後目は只今。サ早く、早く」と子をせかし、重若の腕に手を添えて、自らを介錯、壮絶な最期を遂げます。



物語る小道具  
～ 鎧櫃 ～

攻め寄せる尾田軍をかいくぐり、孫市が重若を隠し入れ、かついできた鎧櫃。

物語る小道具  
～ 久吉への一書 ～

孫市が兼ねてより記しておいた手紙ののちに、父に言い含められた重若によって久吉に差し出される和睦の書。

斯ては果てじと孫市は我が子の腕先キ持ッ添て、  
しっかりと当ればぐはんぜなく。ともに力キ  
身でとゝ様斯かや。ヲ、そふ  
じや出かす、出かす…\*1

■ こがるゝ其身は梢の猿。

「何ンにもしらぬ二人の子供。お前は可愛ふござんせぬか。…武士が立つても捨つても、死ナさぬ死ナさぬ。」と涙ながらにかきくどく孫市の妻・雪の谷。それでも自害の覚悟がゆるがぬばかりか、孫市は妻に、子に代わって介錯せよと容赦なく迫ります。

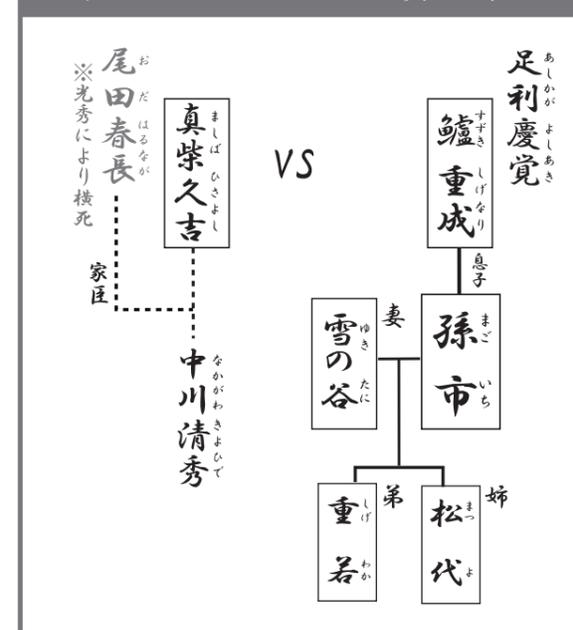
いっそう動揺する雪の谷はどうとう庭の杉にくくりつけられ、夫を止めようと必死にあがくのですが…。

■ かゝ様の縄を

といて上げてたもいのふ！

父の子ならば、我が首を切れ、と言う孫市。そんなことをしたらお灸をすえる、と言う母。「エ、とゝ様の御用を聞とかゝ様が呵らつしやる。」父の忠義と、母の人情のはざまで、ただとまどうばかりの重若の姉・松代。

絵本太功記 杉の森とりで 主要登場人物



【参考文献】  
\*1 『新日本古典文学大系 近松半二江戸作者浄瑠璃集』岩波書店 1996年9月  
\*2 『歌舞伎事典』平凡社 1993年4月  
\*3 『歌舞伎登場人物事典』白水社 2006年5月  
\*4 『絵金 土佐の芝居絵と絵師金蔵』高知県立美術館 1996年  
\*5 鍵岡正謙・吉村淑甫『絵金と幕末土佐歴史散歩』新潮社 1999年5月